

第 56 回 九州地区医師会立共同利用施設 連絡協議会 参加報告



常任理事 玉城 研太郎

第 56 回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会 日程表

会期：令和 7 年 7 月 5 日（土）・6 日（日）

場所：ホテルニューオータニ博多

連絡協議会会長 菊池 仁志（福岡市医師会会長）

連絡協議会実行委員長

案浦 美雪（福岡市医師会副会長）

令和 7 年 7 月 5 日（土）

受付 4F ホワイエ
各部門管理者会（医師会病院部門）
3F 芙蓉の間・華
各部門管理者会（検査・検診部門）
3F 芙蓉の間・雅
各部門管理者会（高齢社会事業部門）
3F アイリス
分科 会司会・演者・座長打合わせ
4F 梅・菊・あじさい
第 1 分科会（医師会病院部門）
3F 芙蓉の間・華
第 2 分科会（検査・検診部門）
3F 芙蓉の間・雅
第 3 分科会（高齢社会事業部門）
3F アイリス
懇親会 4F 鶴の間

令和 7 年 7 月 6 日（日）

特別講演 I 3F 芙蓉の間
演題 「医療を取り巻く最近の動向と日本医師会
（仮）」

講師 日本医師会 会長 松本 吉郎 先生

特別講演 II

演題 「豊臣政権と九州」

講師 福岡市博物館 総館長 中野 等 先生

閉会行事

協議会前日は宮崎県で講演。講演終了後、宮崎ブーゲンビリア空港より空路福岡入り……の
はずが、「火山灰の影響でフライトが欠航になる
可能性があります」との不穏なアナウンス。
なんと新燃岳が元気に噴火中とのこと。運を天
に任せる形で搭乗し、無事に離陸した瞬間には
ホッと胸を撫で下ろしました。

ところが離陸して数分後、機内に突如として
広がる“刺激臭”。隣の席の中年男性がやらか
したのかと疑ったその刹那、周囲からも「くさ
いね〜」「誰よ〜？」との声。まさかの犯人は、
火山でした。どうやら上空でも硫黄の匂いは健
在。人生でそうそう経験できない“空飛ぶ噴火
臭”に、ある意味貴重な思い出が加わりました。

さて本題です。私は今回、「各部門管理者会
（検査・検診部門）」および「第 2 分科会」に参
加いたしました。

管理者会の幕開けは、我々が那覇市医師会生
活習慣病検診センター・城間尚次長によるご講
演「検診車の胸部 X 線検査時における事故対
策の検討について」。巡回バスでの検査中、昇
降台から高齢者が転倒し大腿骨骨折という痛ま
しい事案を受けて、事故原因の究明から再発防
止策まで、極めて丁寧な報告がなされました。

昇降台に手すりなかったこと、事故後には
顧問弁護士や保険会社と連携し誠実な対応を
行ったこと、さらには九州全域の検診施設にア
ンケートを行い、ヒヤリハット事例の共有に努
めた点など、他施設にとっても極めて実用的な
知見となる内容でした。

また、センター所長の崎原永辰先生より、「そ
もそも昇降台が動くのがおかしい！ X 線管球が動
く装置なら事故は起きにくい。メーカーに物申す

令和 7 年 7 月 5 日・6 日 於 福岡市

令和 7 年 7 月、真夏の福岡で開催された「第
56 回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議
会」に参加してまいりました。会議そのものも
充実しておりましたが、まずは前日談から。

べし！」との、もはや演説のような力強い一言が飛び出し、会場内も大いにうなずいておりました。

続いてのご講演は、福岡市医師会による「検査センターの人材育成～検査技術向上への取り組み～」。研修内容も非常に濃密で、技術向上に向けてのご尽力には感服。ただし、少々詰め込みすぎの感もあり、産業保健の立場からは「このままだと燃え尽き症候群まっしぐらでは…？」と心配になるほど。技術と働きやすさの両立を願ってやみません。

午後からの第2分科会では3題の演題発表がありました。

- 1.「糖尿病重症化予防への取り組み ～尿中ALB定量検査の活用～」(飯塚記念病院・豊永副院長)
- 2.「胃検査の現状と課題」(小倉医師会健診センター・佐藤係長)
- 3.「検査結果配信と電子カルテ連携による効率的院内外連携」(福岡市医師会・高下室長)

なかでも印象に残ったのは、2題目の胃検査に関する取り組みです。受診率向上に向けて着実

に成果を出しつつある中、会場から「いつまでバリウムを続けるんですか？内視鏡に変えるべきでは？」との厳しめコメントも飛び出しました。しかし、これは少々一面的な見方。国の指針に則ったバリウム検査は、限られたリソースの中で住民の受診機会を確保する現実的かつ有効な手段です。理想と現場の狭間で奮闘する小倉医師会のご努力に、拍手を送りたいと思います。

そして最後に、個人的なハイライト——なんと、信州大学医学部バスケ部時代の先輩、宮崎市郡医師会理事・菊池安剛先生との奇跡の再会がありました。20年以上ぶり、いや、30年近いご無沙汰だったかもしれません。かつて“信大のゴリ（スラムダンク）”としてリバウンドを制していた大先輩は、今なお圧巻の存在感で、懐かしい思い出話に花が咲きました。いや～、月日は流れても、バスケ魂は変わらぬものですね。

そんなこんなので、学び多く、笑いもあり、感動もあった第56回協議会となりました。来年もまた、こうした出会いと知見の場を楽しみにしております。

